

4月15日 朝礼

入学式にて、佐織西中「時を守り、場を清め、礼を正す」について話をしました。この中の「礼を正す」と「場を清め」について、もう少し話をします。

最初に「礼を正す」ことですが、その第一歩が挨拶です。

漢字の「挨拶」という字を知っていますか。「挨拶」の「挨」は、「押す」という意味があり、「挨拶」の「拶」という字は「迫る」という意味があります。

仏教用語から来ていて、本来の意味は「相手の心に迫る」というような意味があるそうです。禅宗という仏教の宗派で、お坊さん同士で、一つの問いについて、意見を言い合う、話し合う中で、お互いに考えを深めていくということです。

そして、そうした問答を繰り返す中で、「お互いに存在を認め、受け入れますよ」という境地にもたどり着くのです。挨拶はお互いの心が通じ合う第一歩ですね。

皆さんからの挨拶が多くて大変うれしく思っています。

次に、「場を清め」ですが、これは掃除のことですね。

掃除のことを仏教では「作務」といいます。作務（さむ）とは、元は禅宗の修行法です。具体的な内容としては日々の雑用、その中でも特に重要視されるのが掃除です。

こんな説話があります。お釈迦様の弟子に、チューラパンタカという人物がいました。チューラパンタカは、経文を覚えることが苦手でした。あまりに出来がひどかったので、共に仏僧となった優秀な兄からは見捨てられます。しかし、お釈迦様は見ていました。

「経文は良いから、庭掃除をきなさい」と語りかけたのです。但し、只掃除をするのではなく「塵を取る、垢を取る」と唱えさせます。

素直に掃除を続けるうち、チューラパンタカは優秀だった兄よりも先に悟りを得ました。

塵や垢は煩惱や迷いのことです。それを取れば、真理が見えるということなのですね。心を込めて掃除をすれば自然と気持ちもさっぱりしますし、掃除が効率的な修行法とされているのうなずけます。

皆さんに、何かを唱えながら掃除をきなさいと言っているわけではなく、「労働としての掃除」と考えずに、心を磨く行為と思いながら、掃除をしてくれると、きっと皆さんの成長につながると思います。

今日は「挨拶」と「清掃」についてお話をしました。

この2つは、皆さんが成長する上でのベースとなるものです。

今年は意識して取り組んでみてください。